

受験番号

氏名

二〇二二年度

武蔵野学院大学 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科

特待生選抜入学試験

二〇二二年一月二九日実施

国語総合（一〇〇点 六〇分）

注意事項

一 試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

二 監督者の「解答はじめ」の指示があつた後、速やかに問題冊子と解答用紙の両方の所定欄に受験番号と氏名を記入しなさい。

三 この問題冊子は、7ページあります。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせなさい。

四 解答は、解答用紙の所定の欄に記入しなさい。

五 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。

六 不正行為について

- ① 不正行為に対しては厳正に対処します。
- ② 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が注意をしますので、注意や指示に従つてください。従わない場合には、不正行為とみなされる場合があります。
- ③ 不正行為を行つた場合は、その時点で受験を取りやめさせ退室させます。

七 試験終了後、問題冊子は回収します。

第一問 次の傍線部の漢字の読み方をひらがなで答えなさい。

- (1) 祝宴で喜びをわかつあう。
- (2) 親の敵を見るような目。
- (3) 研究を重ね、疫病の治療をめざす。
- (4) 授かつた恩恵に感謝する。
- (5) 金塊に目がくらむ。
- (6) はち植えの双葉に春を感じる。
- (7) 寝食を忘れ、のめりこむ。
- (8) 気を紛らす。
- (9) 物語の枢要な人物。
- (10) 罪を償う。

第二問 次の空欄に入る漢字を使った熟語を選択肢の中から記号で答えなさい。

(例) () らかに話す。

ア 急流 イ 華麗
正答 ウ (滑らかに話す) ウ 円滑
エ 潤沢

(1) 人々の間に驚きが () け抜けた。

ア 賭博 イ 競走 ウ 駆使
エ 通行

(2) () しい成長に感心する。

ア 范大 イ 著作 ウ 山頂
エ 過敏

(3) 犯罪を () くための法律。

ア 歳末 イ 栽培 ウ 掲載
エ 裁量

(4) 山登りをして、自然に () くる。

ア 還暦 イ 環境 ウ 変換
エ 交替

(5) 専制君主が () べる国家。

ア 滑降 イ 統合 ウ 総体
エ 治世

第三問 次の四字熟語の空欄部分に挿入すべき語句をカタカナで示した語群の中から選び、漢字で答えなさい。

(1) () 自贊

(2) 破顔 ()

(3) 自給 ()

(4) () 一転

(5) 千載 ()

≈ 語群 ≈

ジソク

シンキ

イツシン

ジガ

イチグウ

イツショウ

第四問 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

- (1) 傍線部①「聖徳太子による『和を以て貴しとなす』を規範として掲げることが半ば習慣化した状況」とは、どのような社会状況をさしているものであるか、傍線部①以降の文中の言葉で答えなさい。
- (2) 傍線部②「沈黙しがちな自らの壁」と同じ意味をもつ表現を、文中の言葉で答えなさい。
- (3) 傍線部③「討論は、ある事について自分の意見が正しく対立する側の意見は間違っていると主張することであり、これを教育的に訓練する場がディベートである」ことをふまえて、ディベートによつて育まれる特性はどのようなものか、文中の言葉を使って説明しなさい。
- (4) 傍線部④「出る杭は打たれる」と同様の意味をもつことわざを、次の中から一つ選び記号で答えなさい。
- ア 好奇心は猫をも殺す
- イ キジも鳴かずば撃たれまい

ウ 猿も木から落ちる

エ 馬の耳に念佛

(5) 異文化交流における日本人の主張の方法について、自身の体験や経験を紹介しながら一五〇字以内で自分の考えをまとめなさい。

受験番号

氏名

問一（各2点）

(9)	(7)	(5)	(3)	(1)
すうよう	しんしょく	きんかい	えきびよう	しゅくえん
(10)	(8)	(6)	(4)	(2)

※6

※5

問二（各2点）

(5)	(3)	(1)
イ	エ	ウ
(4)	(2)	イ

問三（各2点）

(5)	(3)	(1)
一遇	自足	自画
(4)	(2)	イ

※2

※1

(1)

(5点)

(2)

(5点)

(3)

(15点)

(4)

(5点)

(5)

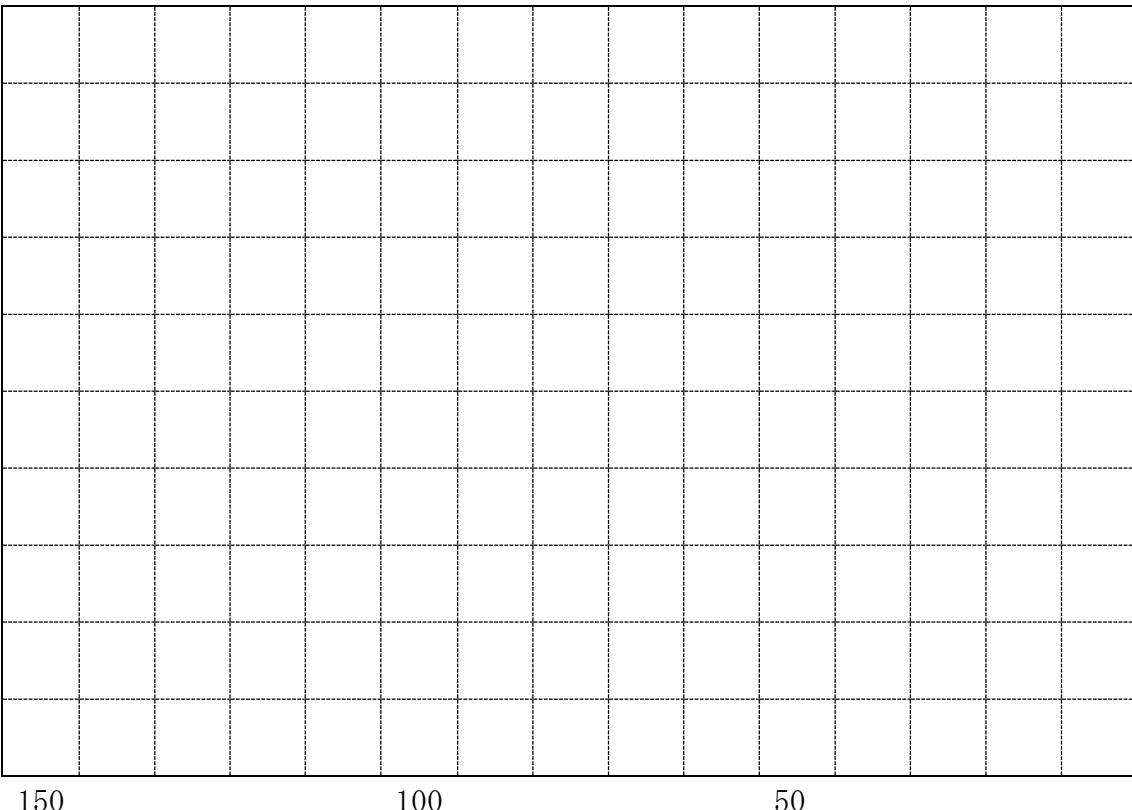
(30点)

協調や和が優先された社会

沈黙にもとづく曖昧な態度

考え方や立場の相違にもとづく様々な意見を注意深く聞き、整理し、単なる批判を超えて自らの意見を主張できるようになる。（ものごとには考え方や立場の相違から様々な意見があるのは当然であるが、そのなかにあっても自分の意見を堂々と主張することができる も可）

イ



※の箇所は記入しないでください

※4

※3